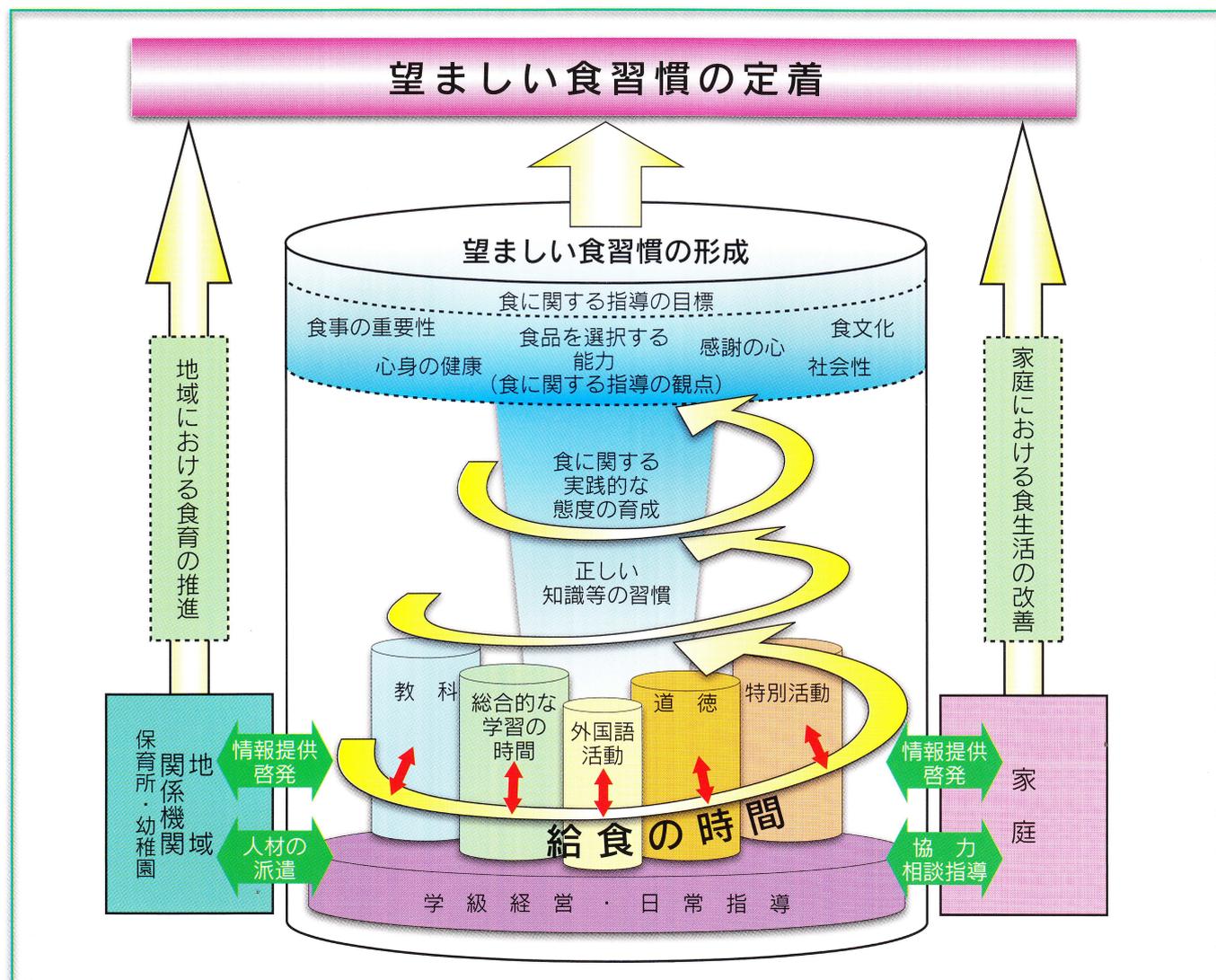


食育推進構造図

「望ましい食習慣の形成」を目指すために、学級経営、日常指導を基盤として、各教科等における食に関する指導と、給食時間における食に関する指導を関連させながら、繰り返し指導を行います。

食に関する指導に当たっては、子どもたちが実際に食べる学校給食を教材として積極的に活用することが重要です。さらに、家庭や地域と連携を図りながら学校教育活動全体で食育を推進していくことが必要です。



本県の小中学校においては、すべての学校で食育担当者が設置され、全体計画・年間指導計画が作成され、具体的な実践も行われています。

しかし、栄養教諭等や食育担当者に任せきりになってはいないでしょうか。

望ましい食習慣の形成は、学校教育活動全体を通して行うものですから、一人一人の教職員が学校における食育の重要性を認識するとともに、校長先生を中心として教職員が互いに協力し合い、一体となって取り組むことが大切です。

ここでは、学校における食育の取組について、次の4つの視点から実践例を紹介します。

- 1 校内指導体制の整備、食に関する指導の全体計画・年間指導計画等の見直し
- 2 各教科等と関連付けた指導
- 3 給食指導の充実、給食の時間における食に関する指導の工夫
- 4 家庭や地域との連携を図った取組の推進